

富山県立富山商業高等学校

「デザイン思考」を取り入れた商業教育

「創像力と実践力による課題の発見・分析と解決」

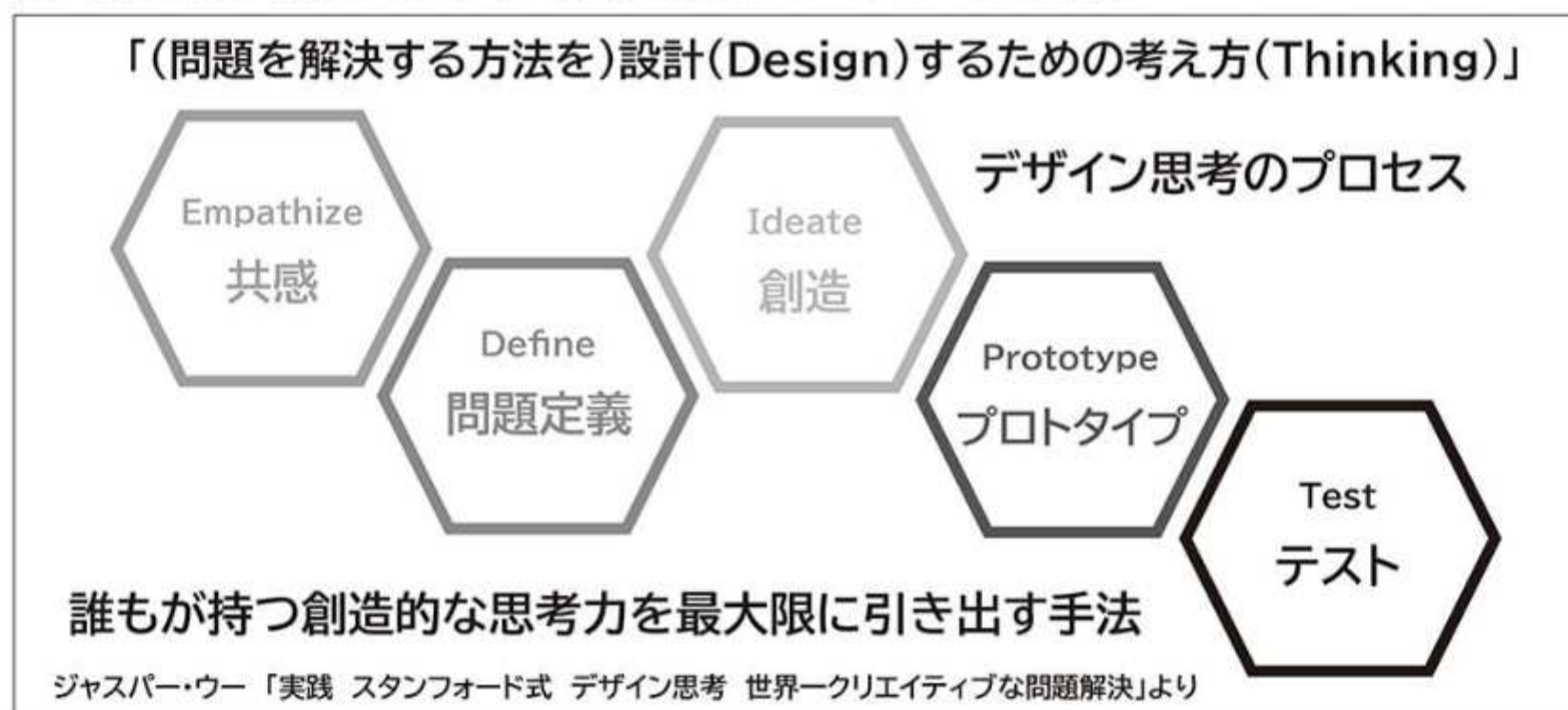
なものへと高めていこうとしている。

デザイン思考では、まず「共感」によるニーズ把握がスタートにある。そこから取り組むべき課題をリサーチする「問題定義」へと進み、新たな「創造」に着手する。このとき精密な完成品ではなく「プロトタイプ（試作品）」を作成し、「テスト」を経て失敗から学ぶスタイルを工夫し、顧客ともやり取りをしながら何度も試行錯誤を繰り返してブラッシュアップさせていくことが大きなポイントだと安田教頭は捉えている。実践の中で、生徒たちからも試行錯誤を繰り返すプロセスにおいて、人の意見を聞くと新しい発想が生まれるという実感を得ているという。自分ひとりの発想では生まれないものを協働で開発することの楽しさを感じているようだ。試行錯誤のプロセスにこそ、気づきと学びがある。教員側には、正解のない領域に価値を生み出すためのオープンエンドな時間をファシリテートする意識が求められることとなる。

「デザイン思考」の実践

TOMI SHOPに限らず、課題研究などにて進められてきていた地域の課題解決にかかわる実践などをベースにし、新たな教育課程づくりを模索する中で、富商では2021年度より、様々な外部講師からの協力・指導を受けながら、実際のビジネスで用いられている「デザイン思考」を取り入れ、より実践的

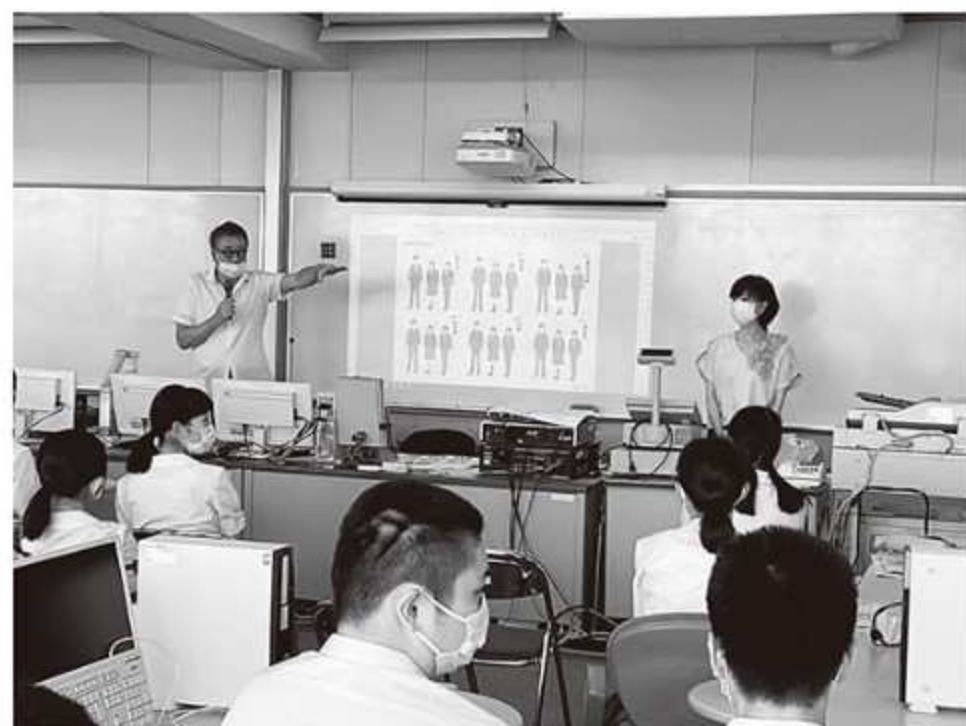
課題発見力課題解決力をデザイン思考で磨き、ゼロから1を生み出す



経済産業省が示す社会人基礎力のうち、とくに現在の富商では「考え抜く力」を高めたいと土肥校長は話す。課題発見力・計画力・創造力の育成を重点に据え、デザイン思考を取り入れた学習プログラムをもつて高めていくアクションプランを設定している。ビジネス界にて用いられているデザイン思考の概念を取り込むことで、創造力と実践力を両輪とした商業教育のプロトタイプを作成する挑戦的な学校経営実践といえるだろう。

✓ 身近で自分事なデザイン

デザイン思考の要素は、富商における教育実践の様々な場面に散りばめられつつあるが、2022年度からの新たな学科編成の下、学年ごとに核となる科目を中心に推進する計画で進められている。この核となる科目では、プロの外部講師を招へいしての特別講義が組み込まれている。なお、外部講師の招へいに際しては、



制服をテーマにしたデザイン思考授業

県の「とやま新時代創造プロジェクト学習推進事業」の予算を活用している。

2022年度は、1年生の「ビジネス基礎」のうち、「創造力」を引き出すデザイン思考を用いた探究的な学びの授業研究として、8回の特別講義が組み込まれている。この特別講義も活用しながら、生徒たちに一番身近で自分事、かつ、問題解決をしていくにあたって全校を巻き込める題材として「制服」を取り上げた実践

の一部を紹介する。

他校の制服の比較プロトタイプで生徒と教員が本質に気づき、創造性が起動されて拡散した膨大な「意義の提案」から、6パターンに収束を行い、プロのデザイナーに視覚化させた。生徒たちは示された案についてグループ別に検討し、再度、プロトタイプを練り上げる段階に進んでおり、今後のオープンハイスクールに参加する中学生や、同窓会からも意見を聞く予定である。また、教職員からの意見も出してもらっている。目にみえるプロトタイプがあるからこそ、生徒も教職員も、「富商らしさ」とは何かという問いについて具体的な自分の思いを意見として出すことができるようになるという。今年のTOMI SHOPにてファッションショーを実施して、来場した保護者も含めたお客さんにも見てもらう企画も進行中である。

制服に関する討議の中で、生徒たちはどのような事実への気づきがあったの

か。言い換えれば、自分たちの意見（現状認識）から、どのような問題定義（仮説）が見いだせるのか。たとえば、「現在の制服はあなた自身が富商ライフを満喫する装置になっているか？」との問いに対し、なっている27%・なっていない73%という結果がある。理由として出された意見を整理しながら、制服が変われば満喫できるかとの新たな「問い」へと掘り下げ、何度も繰り返し「問い」を練り上げながら、11月のTOMISHOPへ向け、新デザインの制服とあわせて、最適な校則の意義を議論して改訂する機会ととらえるステージに進んでおり、今後の動向が注目される。生徒参加を中心とする開かれた学校づくりの中でも、身近な題材を周辺社会とのかかわりの中で見直し、新たな価値創造へと結びつけようとする優れた実践例ではないだろうか。

高校改革と商業教育

富商では地元の産業人を支えるというミッションの下で、多様な活動が展開されている。たとえば、富山市の事業である「とほ活」におけるモデルコース作りを通じた中心市街地の活性化や、富山販売士協会と協力した「富商ミツバチプロジェクト」、富山大学の協力も得ながらスポーツチームを活用した地域の課題解決などに取り組んでいる。このほか、アプリ(Monoxer)を活用した基礎学力の定着化も試みている。普通教育と専門教育双方の充実化が図られている。

文部科学省は今年7月、「新時代に対応した高等学校改革推進事業」の採択校として19校を指定した。この事業のうち、とくに地域社会に根差した学科の設置を目指す普通科高校の実践は、一見、職業学科の実践内容と競合するかのように見える。しかしながら、土肥校長も安田教頭も、商業高校との差異化は可能だと語る。富商のデザイン思考を取り入れた実践のように、ビジネスのプロセスそ

のものとも言える、より実践的で創造的な活動により、商業教育の魅力をさらに強く打ち出せるとする。

また、商業の専門科目で学んだ理論的ベースを有したうえで、地域社会と協働するアドバンテージは大きなものだろう。経済系の学部に進学した卒業生からも、大学の授業内容が高校の授業でも学んだ内容と重なる部分も多く、実践的な面では大学では学べない内容も含まれているとの声もある。

先行き不透明といわれる時代において、正解の見えない領域に自分たちで価値を創造する経験が得られる点が、社会から必要とされる人材育成に求められる重要な要素であり、商業高校の存在意義ともいえるだろう。

〔学校所在地〕

〒930-8540 富山県富山市庄高田413番地

TEL 076-441-3438

HP <http://tomisho.el.tym.ed.jp>